

おいしさを笑顔に

KIRIN



キリンホールディングス株式会社
第173期 株主通信

2011年1月1日から2011年12月31日まで

ハーモニア

HARMONIA

質的拡大を着実に実現した2011年度から 売上反転・拡大を目指す2012年度へ

当期の概況

質的拡大のさらなる追求により
収益性・効率性が向上

2011年度のキリングroupは、長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015(略称:KV2015)」の第2ステージである「2010-2012年キリングroup中期経営計画」の2年目として、さらなる“質的拡大”を追求しました。国内においては、キリンビール社、キリンビバレッジ社を中心に総合飲料グループ戦略を一層推進し、海外で

は、重点エリアであるアジア・オセアニアでの基盤強化を進めた一方、次なる成長機会を求めブラジルの事業基盤を獲得しました。

その結果、グループ全体の収益性・効率性はさらに向上しました。しかし、国内酒類事業における東日本大震災の影響や海外酒類・飲料事業での厳しい事業環境の継続により、2011年度の連結売上高は前期比4.9%減の2兆717億円、営業利益は同5.8%減の1,428億円、経常利益は同2.9%減の1,368億円となりました。また、当期純利益は、投資有価証券評価損や東日本大震災

KV2015グループビジョン

- いつもお客様の近くで様々な「絆」を育み、「食と健康」のよこごびを提供する
- 「発酵・バイオ」「モノづくり」「リサーチ・マーケティング」の技術を総合し、独自の価値と最上の品質を追求する
- 酒類・飲料・医薬を主力事業として、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指す

成長へのシナリオ

国内酒類事業の再成長により基盤を強化

- 1 総合飲料グループ戦略の推進
- 2 国際化の推進
- 3 酒類、飲料、医薬に次ぐ健康・機能性食品事業の構築

代表取締役社長 三宅 占二

関連損失の計上により、同35.0%減の74億円となりました。なお、当期の配当金は、1株当たり27円とさせていただきます。

当期の主な施策と成果

グループ各社が着実に 国内総合飲料戦略を実行

国内酒類事業では、キリンビール社が東日本大震災による影響からの販売回復に向け「キリン一番搾り生ビール」や「キリン のどごし<生>」など定番商品を強化しました。また、震災により

操業を停止していた仙台工場の出荷を11月に再開しました。再開後の初出荷商品となった「一番搾り とれたてホップ生ビール」は、東北産原料を使った被災地復興を応援する商品として、また、仙台工場の復興の象徴として全国で発売し、例年を上回る販売を記録しました。さらに、ノンアルコール・ビールテイスト飲料の「キリン フリー」は国内での取り扱い飲食店数を着実に伸ばしたほか、米国でのテスト販売も開始しました。

メルシャン社では「メルシャン おいしい酸化防止剤無添加ワイン」などの国産デイリーワイ

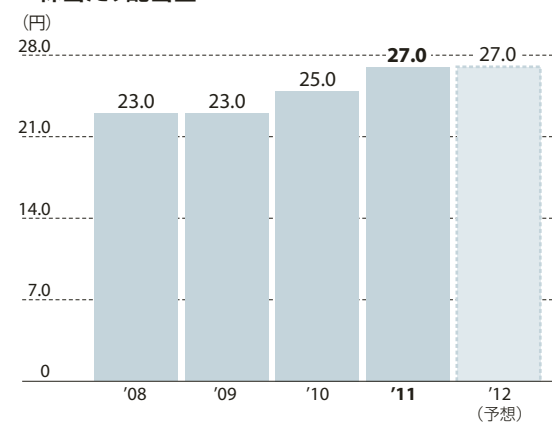
ンの販売が好調だったほか、キリンビール社と共同開発したノンアルコール・ワインテイスト飲料「メルシャンフリー スパークリング」が計画を大きく上回る販売を達成しました。

国内飲料事業では、キリンビバレッジ社が商品力・営業力の強化を図るとともに、引き続き収益構造改革に取り組み、競争力の再構築を進めました。定番ブランドである「キリン 午後の紅茶」は、「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」などが牽引したことで2年連続過去最高の販売実績を更新しました。

当期の実績と次期の業績予想

	2011年度実績	前期比	2012年度業績予想	2011年度比
連結売上高(酒税込み)	2兆717億円	△4.9%	2兆2,300億円	+7.6%
連結売上高(酒税抜き)	1兆7,483億円	△4.7%	1兆9,050億円	+9.0%
営業利益(のれん等償却後)	1,428億円	△5.8%	1,620億円	+13.4%
営業利益率(酒税抜き)	8.2%	△0.1%	8.5%	+0.3%
ROE(のれん等償却前)	6.9%	△1.9%	11.6%	+4.7%
海外売上高比率(酒税抜き)	31%	+6%	35%	+4%

1株当たり配当金



海外総合飲料戦略のさらなる進展に向けた取り組みを強化

2011年度は、海外総合飲料戦略の進展に向けた取り組みを強化しました。3月にベトナムの飲料製造・販売会社であるインターフード社を子会社化したのに続き、8月には中国の華潤創業社と同国で清涼飲料事業を展開する合併会社を設立し、今後急速な成長が見込まれる中国・東南アジアの飲料市場において新たな事業基盤を獲得しました。さらに、11月には、ブラジルにおいてビールで2位、炭酸飲料で3位のシェアをもつスキンカリオール社を完全子会社化しました。

なお、豪州のライオン社では、金利上昇やエネルギーコスト上昇により消費が弱含むなか、酒類・飲料事業ともに引き続きブランド力強化を重視したマーケティングを通じ、収益性・効率性の向上に努めました。特に消費者のさらなる低価格志向など厳しい市場環境の下にある飲料事業は、中期的な収益性改善に向け、抜本的な改革を進めました。

医薬事業の新たな成長機会を獲得

医薬事業では、協和発酵キリン社において腎性貧血治療剤「ネスプ」など主力製品の販売が好調だったほか、研究開発においても、独自の抗体技術を用いたヒト化モノクローナル抗体「KW-0761」の承認申請を行うなど、国内外で新薬候補品の開発を着実に進めました。

また、販路拡大を目指し、米国と欧州でがん関連領域をはじめとする医療用医薬品の開発・販売体制をもつ英国のプロストラカン社の全株式を2011年4月に取得しました。さらに11月には、今後高い成長が見込まれるバイオシミラー医薬品市場において、富士フィルム株式会社と高い信頼性と競争力を備えた製品の開発・製造を行う合併会社の設立に向け基本合意書を締結しました。

次期の見通し

“実行と質的拡大”の中計最終年度として
収益性向上、売上反転・拡大を図る

「2010-2012年キリングループ 中期経営計画」の最終年度である2012年度は、引き続き収

益性・効率性の向上を目指すとともに、ブランド力・営業力を強化し、お客様のニーズに応える新たな価値の提供を通じて売上反転・拡大を図ります。また、次期中期経営計画につなげる1年として、中長期的な成長を見据えた取り組みも進めていきます。

2012年基本方針

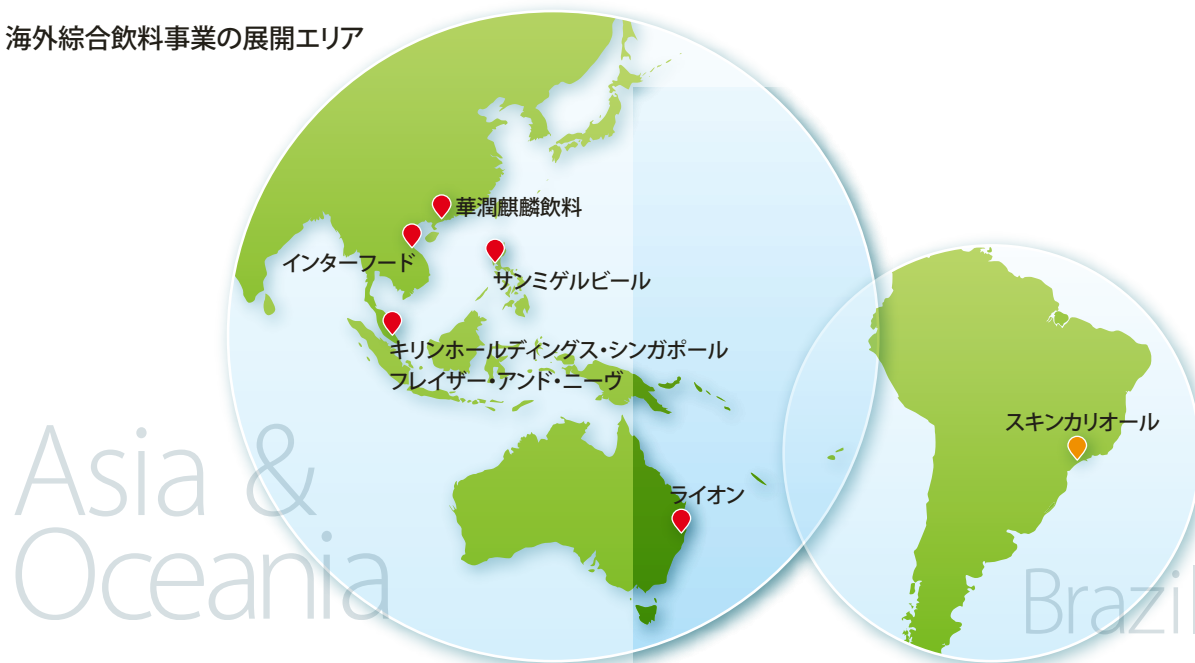
- 1 ブランド基軸の経営による国内総合飲料グループ戦略推進
- 2 海外総合飲料事業における成長の追求
- 3 医薬事業における国内基盤強化とグローバル展開推進
- 4 国際化進展に伴うグループ経営力強化
- 5 社会と共生する企業グループとしてのCSR実践

国内酒類・飲料事業では、麒麟ビール社、メルシャン社、麒麟ビバレッジ社において、バリューチェーン全体での構造改革を継続していきます。あわせて、既存ブランドのさらなる強化はもとより、長期的な視点に立ったブランド育成やお客様の深層ニーズに根ざした新しい価値の創造を進めます。

海外酒類・飲料事業においては、オセアニアでは、ライオン社が酒類事業で新カテゴリーの創出や高付加価値商品へのシフトを進めるほか、生産拠点の最適化によって飲料事業の収益性向上を図ります。また、東南アジアでは地域統括会社の麒麟ホールディングス・シンガポール社が、エリア内の各事業会社のシナジー創出を進めます。さらに、ブラジルでは、構築した新経営体制の下、定番ブランドの強化による売上拡大やコスト構造の見直しなどを通じて収益性向上を図ります。

医薬事業では、基盤となる国内市場において営業力を一層強化するとともに、プロストラカン社との連携によりグローバル展開を積極的に推進します。

海外総合飲料事業の展開エリア



なおキリングroupは、CSR(企業の社会的責任)取り組みを経営の重要テーマと位置づけており、「あらゆるステークホルダーとの絆を育む」との方針の下、地球環境保全や飲酒運転・未成年者飲酒などの社会的課題の解決に引き続き取り組んでいきます。

株主の皆様には、キリングroupへのご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

三光 占二

In Brazil

Sao Paulo

SCHINCARIOL

新たなパートナーとともに 成長市場・ブラジルの開拓に挑む

キリンググループは、ブラジル市場で総合飲料事業を展開している
スキンカリオール社を新たにグループに迎え、
海外における酒類・飲料事業のさらなる拡大に取り組んでいます。



Column

「経営統合チーム」を設置し 新たな成長に向けた体制づくりを推進

キリンググループの一員となったスキンカリオール社では、新たな成長に向けた体制づくりが着々と進められています。同社の経営幹部とキリンホールディ

ビール2位、炭酸飲料3位の シェアをもつスキンカリオール社

2011年11月にキリンホールディングスの完全子会社となったスキンカリオール社。同社は、ブラジル市場においてビールで2位、炭酸飲料で3位のシェアをもつ有力企業で、お客様に支持される魅力的なブランドを数多くラインアップしています。また、ブラジル全土に13工場を有し、その多くは2000年代に操業を開始した最新設備を備えています。さらに強力な販売ネットワークも構築しています。

スキンカリオール社は、キリンググループと同様に総合飲料事業を展開し、酒類と飲料の両分野で互いの強みを共有できる関係にあります。今後、同社との連携を強化することで、ブラジルという新たな市場で成長分野の開拓を加速していきます。

ングスの経営幹部が参加する「経営統合チーム」を設置。マーケティング戦略や流通戦略の見直し、コスト削減など、様々なワークストリームについて検討・改善策の立案に取り組んでおり、同社社員への説明会も実施しています。そうした対話のなかでは、「お互いの成長機会を話し合いながら新たな取り組みに挑戦できることを楽しみにしている」「キリンググループとのパートナーシップが社員やステークホルダーの発



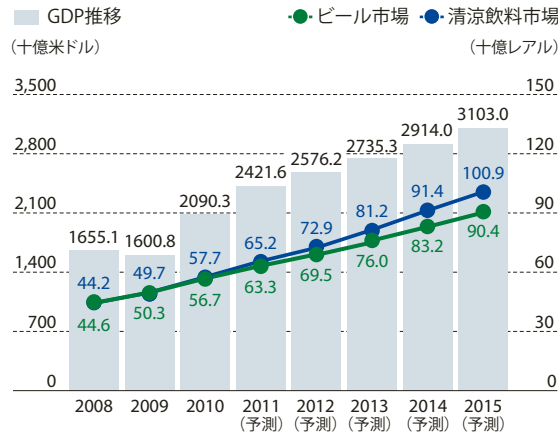
付加価値の高い商品分野で シナジーの創出を追求

ブラジル市場の開拓にあたって着目しているのが、プレミアムビールや機能性飲料など、より付加価値の高い商品分野です。世界第5位、約1億9,000万の人口を有し、GDPは過去10年で平均2桁*と驚異的な成長を遂げたブラジルでは、ビール市場も安定的に拡大。いまや世界第3位のビール消費国となっており、今後も高付加価値商品を中心に成長が続くものと見込まれています。また、現在は炭酸飲料が大半を占めている清涼飲料市場も、お客様ニーズの多様化とともに、高付加価値商品の構成比が拡大していくことが予想されています。

キリングroupは、日本の厳しい競争市場で鍛え抜いてきた商品開発力や提案力とスキンカリオール社の販売ネットワークなどを組み合わせ、企業価値のさらなる向上を進めていきます。

※名目ベース

ブラジルのGDP推移／市場の実績と成長見通し(2010年)



個人消費や人口増加で
経済発展が見込める

2014年の
サッカー
ワールドカップや
2016年の
夏季オリンピック
開催も追い風に!

世界の上位ビール市場(2010年)

1位 中国	45.4	(百万キロリットル)
2位 米国	23.9	
3位 ブラジル	12.6	
4位 ロシア	9.6	
5位 ドイツ	8.8	
6位 日本	6.9	
7位 メキシコ	6.4	

ブラジルは
世界第3位
の市場

ブラジル清涼飲料市場(カテゴリ別)

RTD紅茶 1.0%
スポーツドリンク 4.2%
濃縮還元 7.7%
果汁飲料 8.4%
飲料水 12.3%

炭酸飲料が
市場の6割強を占める

炭酸飲料
66.3%

スキン
カリオールは
炭酸飲料が
強い

スキンカリオール社とは?

1939年にサンパウロ州イトゥー市で清涼飲料の製造を開始。1989年にビール事業に本格進出。2003年には現在の主力ブランドである「Nova Schin」を発売し、新たなブランドイメージを確立。2006年以降、複数の地ビールブランドを買収し、プレミアムラインを拡充した。

現在、ビール事業は国内シェア2位で、2010年の販売実績は約194万キロリットル。清涼飲料事業は、炭酸飲料において国内シェア3位で、2010年の販売実績は約103万キロリットル。

会社概要(数字は2010年12月末現在)

本社所在地 ブラジルサンパウロ州イトゥー市
設立 1939年 資本金 620百万リアル
生産拠点 13工場
事業概要 ビール事業(81.6%) 清涼飲料事業(18.1%)
その他(0.3%) ()内は売上高に占める割合

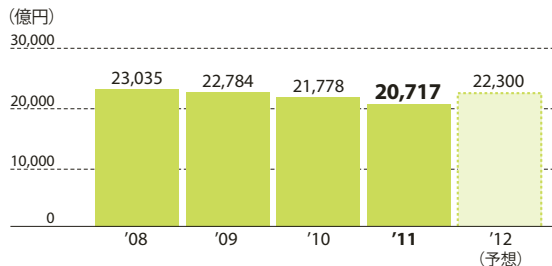


展を促してくれると信じている」といった声も多く聞かれ、経営幹部と社員の期待感と一体感がますます高まっています。

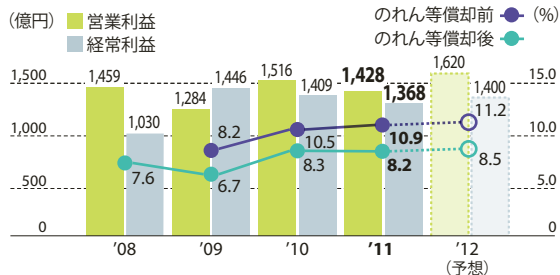


経営統合チーム

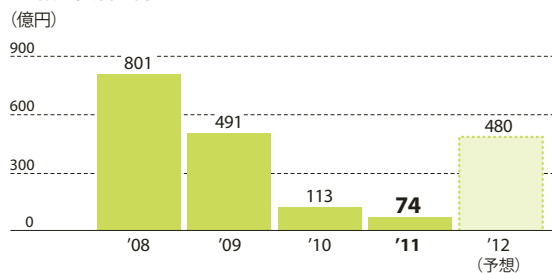
連結売上高



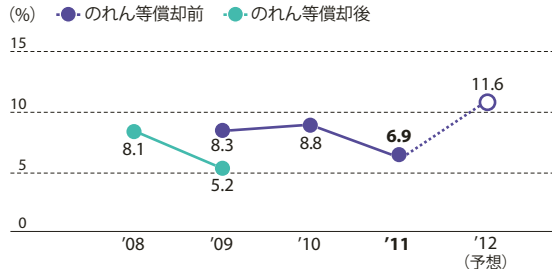
連結営業利益・連結経常利益・連結営業利益率



連結当期純利益

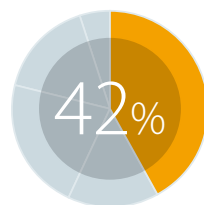


ROE

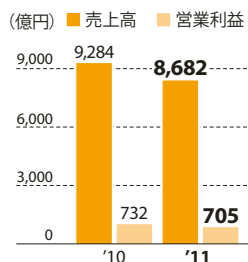
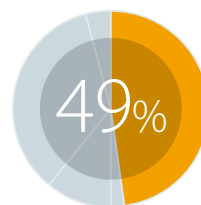


国内酒類事業

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



売上高
8,682億円
前期比 △6.5%

営業利益
705億円
前期比 △3.6%

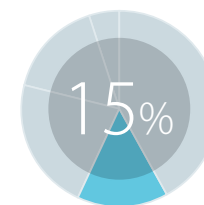
販売回復に向け 定番商品をさらに強化

麒麟ビール社では、東日本大震災により製造・物流・販売面で影響を受け、販売数量が減少しましたが、販売回復に向け、「麒麟一番搾り生ビール」「淡麗グリーンラベル」「麒麟 のどごし<生>」など定番商品のさらなる強化に努めました。メルシャン社では、国産／輸入デイリーワインのほか、ライオン社傘下セント・ハレット社や麒麟ビール社との各共同開発商品などの販売も堅調に推移しました。また、ワインを中心とする酒類事業に経営資源を集中すべく、医薬・化学品事業を譲渡しました。

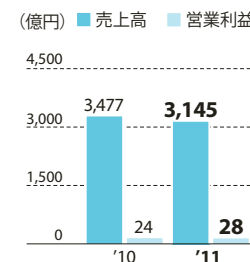
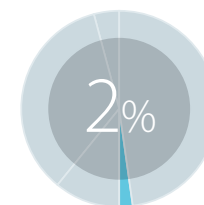
これらの結果、売上高、営業利益ともに減少しました。

国内飲料事業

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



売上高
3,145億円
前期比 △9.5%

営業利益
28億円
前期比 +14.2%

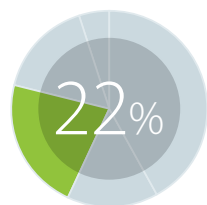
商品力・営業力を強化 収益構造改革も継続

麒麟ビバレッジ社では、紅茶の飲用シーンを拡大した無糖紅茶「麒麟 午後の紅茶 おいしい無糖」などの牽引により、基盤ブランドである「麒麟 午後の紅茶」の販売が好調でした。「麒麟 ファイア」では、コーヒーユーザーの世代別の味覚差や飲用シーンに合わせた商品を展開しました。また、東日本大震災以降、需要が拡大した水は高水準の出荷が続きました。

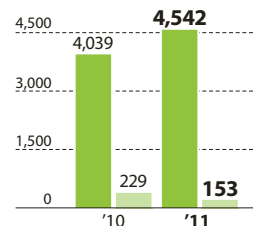
これらの結果、売上高は減少しましたが、収益構造改革の推進などにより営業利益は増加しました。

海外酒類・飲料事業

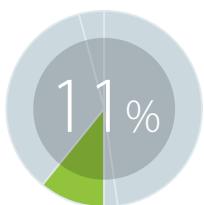
セグメント別売上高



(億円) ■ 売上高 ■ 営業利益



セグメント別営業利益



売上高
4,542億円 ▲
前期比 +12.4%

営業利益
153億円 ▼
前期比 △32.8%

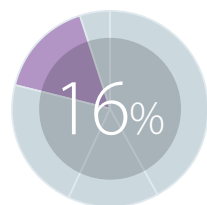
厳しい市場環境のなか 抜本的な事業構造改革を推進

ライオン社酒類事業では、新カテゴリー創出の取り組みや高価格帯への商品構成シフトを進め、主力ブランドが引き続き堅調に販売を伸ばしました。また、成長が続くサイダー(リンゴ酒)カテゴリーへ新商品を投入し、ブランド強化を図りました。一方、消費者の低価格志向を背景に厳しい市場環境の続く飲料事業では、拠点の最適化、原料調達方法の改善など、中期的な収益性改善に向け、全バリューチェーンにおける抜本的な取り組みを推進しました。

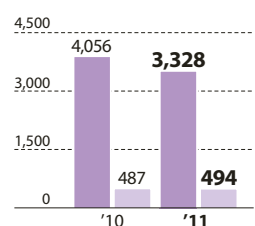
これらの結果、売上高は増加しましたが、営業利益は減少しました。

医薬・バイオケミカル事業

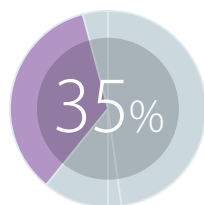
セグメント別売上高



(億円) ■ 売上高 ■ 営業利益



セグメント別営業利益



売上高
3,328億円 ▼
前期比 △17.9%

営業利益
494億円 ▲
前期比 +1.5%

医薬主力製品の販売が好調 新薬候補品開発も順調に進捗

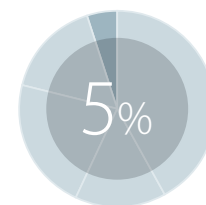
協和発酵キリン社では、腎性貧血治療剤「ネスプ」が好調に推移したほか、花粉飛散量が例年より増加した影響などにより、抗アレルギー剤、抗アレルギー点眼剤の売上も前年を大きく上回りました。また、アジア向けを中心とした輸出が順調に推移した一方で、技術収入は前年を下回る売上となりました。

協和発酵バイオ社においては、医薬・工業用原料の需要が海外で増加し、積極的な拡販により販売数量は伸ばしましたが、円高の影響を大きく受けました。

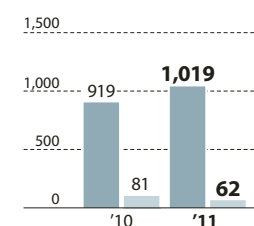
これらの結果、売上高は減少しましたが、営業利益は増加しました。

その他事業

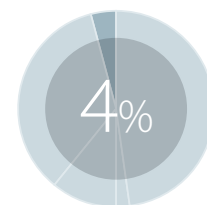
セグメント別売上高



(億円) ■ 売上高 ■ 営業利益



セグメント別営業利益



売上高
1,019億円 ▲
前期比 +10.8%

営業利益
62億円 ▼
前期比 △22.8%

顧客ニーズに応える 製品・サービス提供を推進

キリン協和フーズ社では、東日本大震災後も顧客との関係力をさらに強化し、ニーズに応える製品・サービスの提供に努めたことにより、加工食品メーカー向けの原料を中心に売上が伸張しました。

これらの結果、売上高は増加しましたが、営業利益は減少しました*。

*主に小岩井乳業社がキリンホールディングスの直轄となり、国内飲料事業からその他事業へ移管されたことによる

連結損益計算書の概要

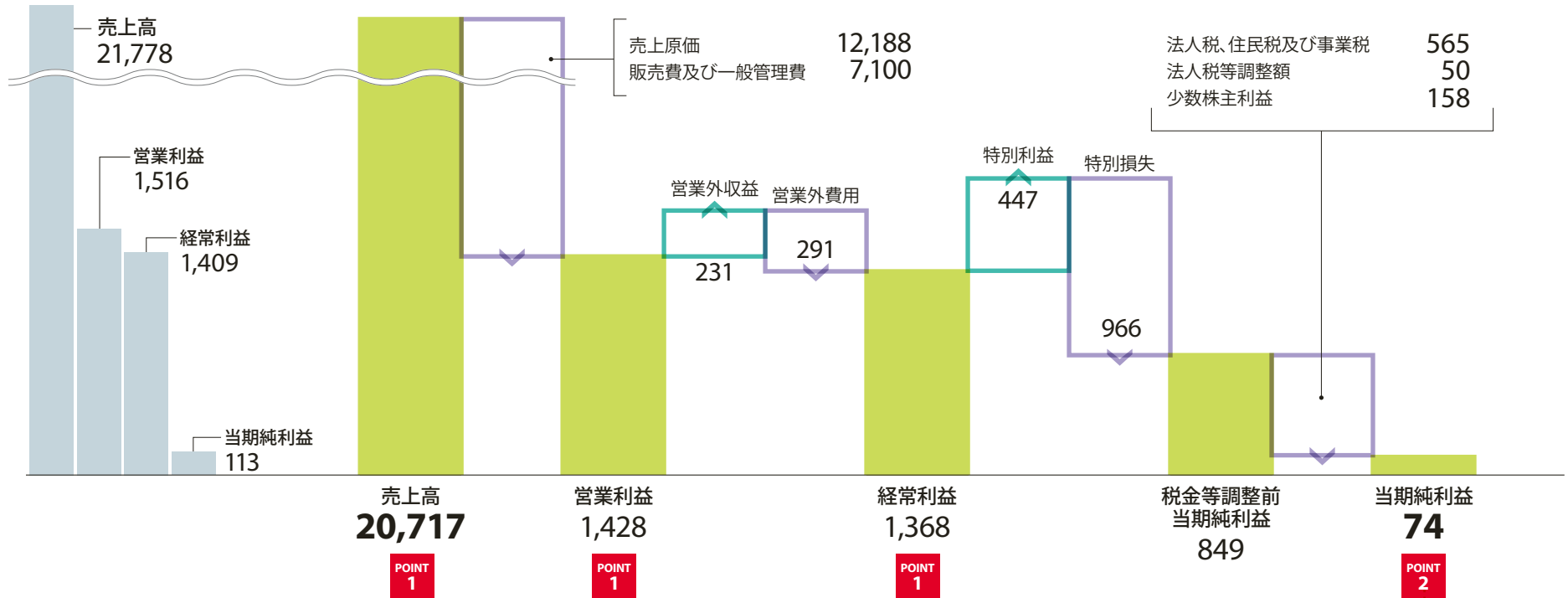
前期

(2010年1月1日～2010年12月31日まで)

当期

(2011年1月1日～2011年12月31日まで)

(単位:億円)



POINT 1

売上高／営業利益／経常利益

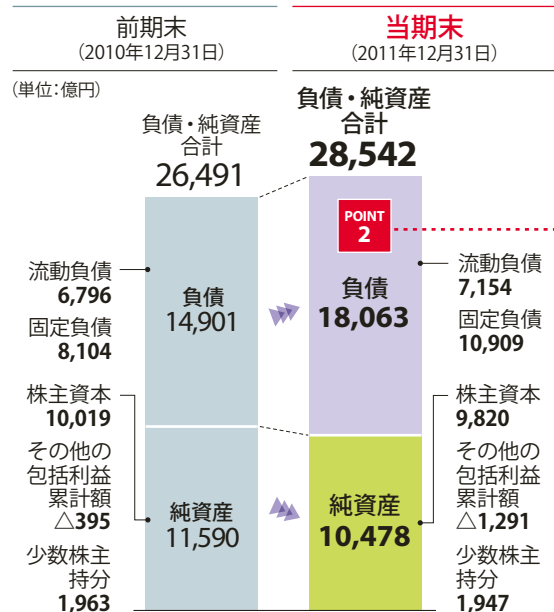
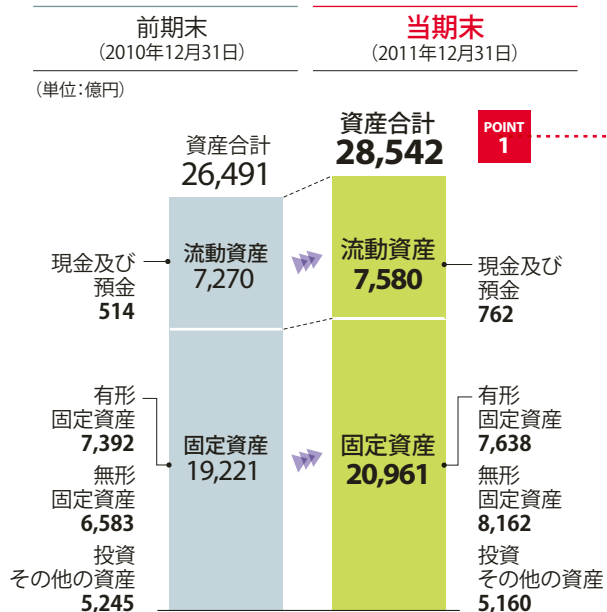
グループ全体の収益性と効率性がさらに向上したものの、東日本大震災の影響や海外酒類・飲料事業における厳しい事業環境の継続などにより減少しました。

POINT 2

当期純利益

投資有価証券評価損、東日本大震災関連損失および固定資産減損損失などの計上により減少しました。

連結貸借対照表の概要



POINT

1

資産

主にスキンカリオール社の子会社化に伴うのれんなどの無形固定資産の増加により2,050億円増加しました。

POINT

2

負債

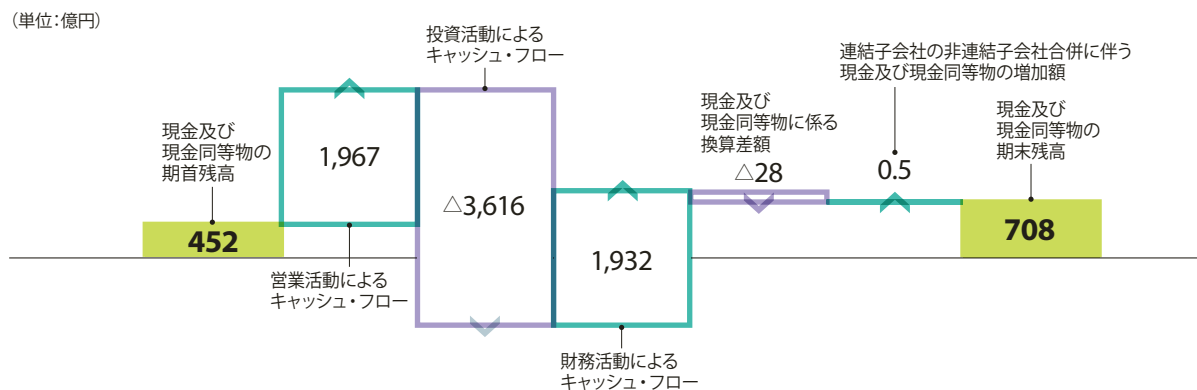
主にスキンカリオール社の株式取得に伴う長期借入れと社債発行などに伴う固定負債の増加により3,161億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

POINT

当期

(2011年1月1日～2011年12月31日まで)



POINT

連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券評価損などの増加要因があったものの、法人税等の支払額の増加などにより前期比212億円減少の1,967億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に子会社株式の取得・売却により、3,616億円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、コマーシャル・ペーパーの増加や社債の発行などにより、1,932億円の収入となりました。

注目の製品

キリンビール

Kirin Brewery Company, Limited

「キリン 麦のごちそう」

近年、節約のための内食や家飲みが広がるなど、家庭での時間を大事にする“家庭回帰”の傾向が強まっています。こうした傾向に着目し、日常生活をより心地よく、幸せに過ごしたいというニーズにお応えする新ジャンル商品として「キリン 麦のごちそう」を2012年2月に全国発売。これまでにない新しい飲用シーンを提案し、新ジャンルカテゴリーにおける価値領域の拡大を図っています。



キリンビール

Kirin Brewery Company, Limited

「キリン ワインカクテル ワインスピリッツァ 白」

お客様の嗜好の多様化が進むなか、ハイボールのように、原酒の良さを生かしながら飲みやすくして、お酒を気軽に楽しむスタイルが広がっています。こうしたニーズに着目し、ワインをベースにしたカクテルを開発。ワイン気分を気軽に味わえる爽快な飲み心地のお酒として、白ワインを炭酸水で割った「キリン ワインカクテル ワインスピリッツァ 白」を2012年2月に発売しました。



キリンビバレッジ

Kirin Beverage Company, Limited

「キリン からだ想い茶 すーっと茶」

キリンビバレッジ社の調査によると、日本人の約6割が、日常的に「のど」や「鼻」の不快感を感じています。そこで、グループ横断ブランド「キリン プラスアイ」シリーズから、現代人の健康課題をサポートする健康茶ブランド「キリン からだ想い茶」の第2弾商品として、アールグレイの紅茶をベースにユーカリ成分やカリウム果汁をブレンドした「キリン からだ想い茶 すーっと茶」を2012年2月に発売しました。



キリンビバレッジ

Kirin Beverage Company, Limited

「午後の紅茶 おいしい無糖」

「午後の紅茶 おいしい無糖」は、紅茶葉のすっきりと爽やかな味わいを高く評価いただき、2011年の販売数量は300万ケースを突破(303万ケース)しました。2012年3月からは、新たに「フレッシュカット茶葉※」を使用し、さらに雑味のないすっきりとしたおいしさに進化させてリニューアル発売し、無糖紅茶のさらなる定着を目指します。

※茶葉を発酵させた後、抽出に近い工程でカットして鮮度管理された茶葉のこと



メルシャン

Mercian Corporation

「メルシャン エブリエ」

ワイン本来の魅力である芳醇な香りと、バランスの良い、甘くない味わいを手頃な価格で楽しみたいというメルシャン社員一人ひとりの声から生まれた国産デイリーワイン「メルシャン エブリエ」を2012年3月に発売しました。ワインのより日常的な飲用を促すことでワイン市場拡大を目指しています。



復興応援 キリン 絆プロジェクト

笑顔で結ぶ。人を、日本を。

「復興応援 キリン絆プロジェクト」では、「地域食文化・食産業の復興支援」、「子どもの笑顔づくり支援」、「心と体の元気サポート」の3つの幹で活動を実施しています。その活動を通じて、産業が活性化し、将来に希望を持つ子どもたちが増えてコミュニティに元気が広がり、そして地域全体が活性化していくことを願っています。なお、キリンの復興支援活動は、被災地と全国がつながり一人ひとりの想いが大きな力になることを願い、お客様にお買い上げいただいた商品の売上や利益の一部、グループ各社の従業員や家族からの募金を復興支援活動の資金として役立てています。2011年度は賛同いただいた方々のご協力により現在約18億円の活動資金が集まり、支援活動を進めています。

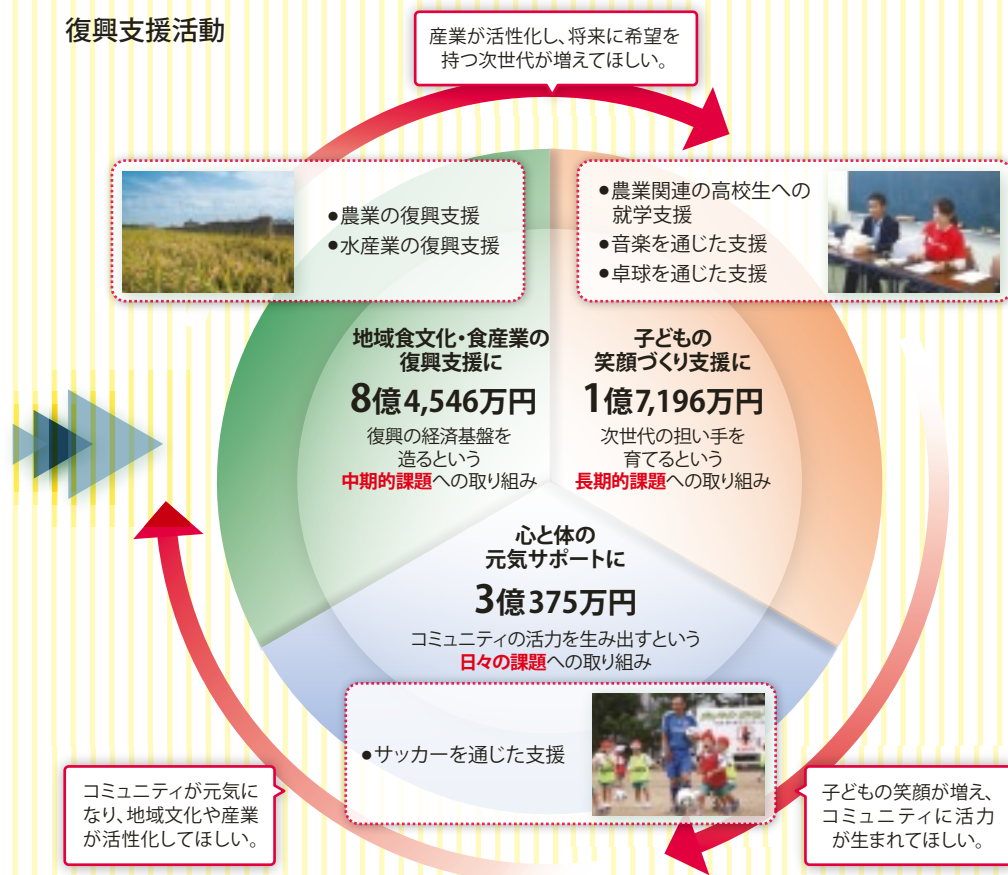
WEB ホームページで詳細に報告しています
<http://www.kirinholdings.co.jp/csr/support/index.html>

キリン絆プロジェクト 🔍 検索

活動資金積立のための施策(2011年度)



復興支援活動



会社概要 (2011年12月31日現在)

商号	キリンホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
資本金	102,045,793,357円
従業員数	251人(キリンホールディングス連結従業員数:40,348人)
本社所在地	〒104-8288 東京都中央区新川二丁目10番1号 TEL 03(5541)5321(代表)
売上高	2,071,774百万円(2011年12月期キリンホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略・経営管理ならびに専門サービスの提供

役員 (2012年3月29日現在)

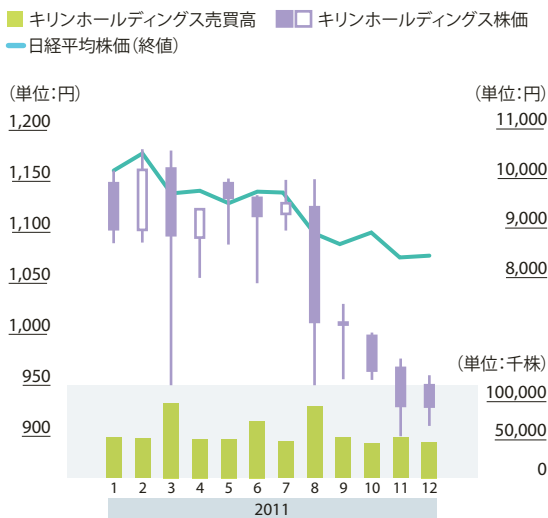
代表取締役社長	三宅 占二	常勤監査役	鈴木 一喜
代表取締役常務取締役	小林 弘武	常勤監査役	百武 直樹
代表取締役常務取締役	中島 肇	社外監査役	手塚 一男
常務取締役	小川 洋	社外監査役	大根田 伸行
常務取締役	橋本 誠一	社外監査役	岩田 喜美枝
取締役	鈴木 政士		
取締役	西村 慶介		
社外取締役	三木 繁光		
社外取締役	有馬 利男		

グループ会社一覧 (2012年1月1日現在)

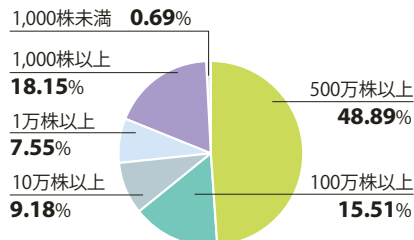


※持分法適用会社

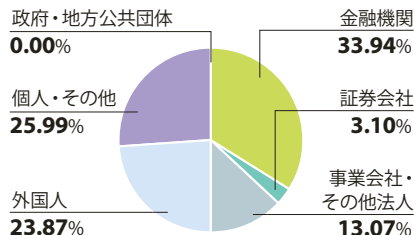
日経平均株価・株価・売買高の推移 (東京証券取引所)



所有株数別分布状況



所有者別分布状況



発行済株式総数 **965,000,000**株

株主数 **140,598**名

大株主 (千株未満を切り捨て、小数点以下第3位を切り捨て)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	48,687	5.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	48,556	5.03
明治安田生命保険相互会社	35,046	3.63
株式会社磯野商会	23,272	2.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	19,355	2.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,251	1.99
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	19,065	1.97
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505041	14,753	1.52
メロンバンク エヌエーティークライアント オムニバス	14,666	1.51
野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口)	11,621	1.20

株主様ご優待

1年に1回、12月末時点において単元株(1,000株)以上を保有する株主様にキリングループ商品等のご優待品をお贈りしています。

平成23年12月期 ご優待の内容 各種優待品の中から一つ選択していただけます。

①キリンビール 商品詰め合わせ

酒類/ノンアルコール・ビールテイスト飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容に変更となる場合がございます

②キリンビバレッジ 商品詰め合わせ

清涼飲料詰め合わせセットです。



※商品の内容に変更となる場合がございます

③ビール・清涼飲料 詰め合わせ

キリンビールの「キリン一番搾り生ビール」とキリンビバレッジの清涼飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容に変更となる場合がございます

④チリワイン 詰め合わせ

メルシャンが輸入する、チリNo.1*ワインナーの赤白ワインセットです。



※2010年1-12月チリ対日輸出実績
 ※商品の内容に変更となる場合がございます

⑤スープ・味噌汁 詰め合わせ

キリン協和フーズのフリーズドライ商品詰め合わせセットです。



※商品の内容に変更となる場合がございます

⑥サッカー日本代表 ステーションナリーセット

サムライブルー&などでしてジャパンをモチーフにしたキリンオリジナルのステーションナリーセットです。

- ノート 2冊
- クリアファイル 4枚
- ボールペン 1本

SAMURAI BLUE



※商品の内容に変更となる場合がございます

⑦「キリン飲運転根絶募金」 へのご寄付

ご希望の株主の皆様から商品の代わりに3,000円を寄付金としてお預かりいたします。

詳細について

詳細につきましては、毎年3月初旬、対象の株主様宛に送付される「定時株主総会招集ご通知」に優待申込書が同封されていますのでご確認ください。

株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式の各種お手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
<ul style="list-style-type: none"> ● 上記以外のお手続き、ご照会等 	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定※ 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	手続き用紙のご請求方法 音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufj.jp/daikou/

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	定時株主総会・期末配当金12月31日 中間配当金6月30日
定時株主総会	3月下旬開催
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
公告の方法	電子公告により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.kirinholdings.co.jp/
証券コード	2503

